

ポリウレアの仕様（一般例）

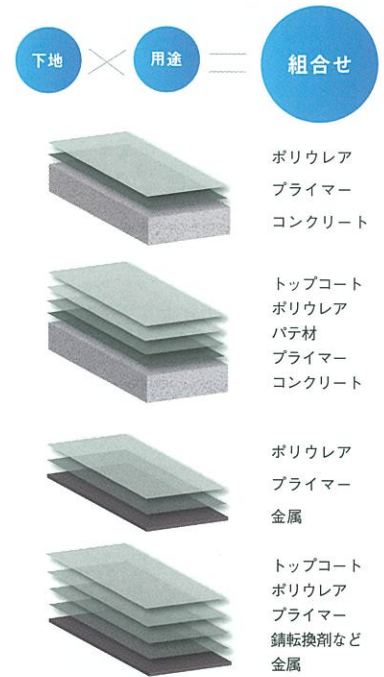
ポリウレア施工の際は、目的・用途や下地によってプライマー等の仕様を組み合わせます。

コンクリートの場合

旧塗膜・付着物除去後、ケレン・脱脂を行います。適切なプライマーを塗布し、下地の状況によってはパテ材などを使用する事で不陸調整、ピンホールの発生を抑えます。ポリウレアについては用途に応じて、種類・塗布厚みが異なります。また芳香族のポリウレアを塗装した場合は、状況に応じてトップコートの使用を推奨しています。

金属下地の場合

旧塗膜除去後、ケレン・脱脂を行います。金属面の下地や錆の状態によっては、錆転換剤などで黒錆に変えた後、適切プライマーを塗布してください。ポリウレアについては用途に応じて、種類・塗布厚みが異なります。また芳香族のポリウレアを塗装した場合は、状況に応じてトップコートの使用を推奨しています。



ポリウレアの施工手順（一般例）

1、下地処理

既設コンクリートの場合は、脱脂・ケレンや脆弱部等の除去、クラック欠損の補修。金属面の場合は、脱脂・ケレンや状況により錆の撤去等を行います。

2、プライマー塗布

塗布下地や、用途によって適切なプライマーを選定。下地によっては、この工程を省略する場合がありますが、基本的には必須事項となります。

（不陸調整）

下地がコンクリートの場合、状況や目的用途により、パテ材等での不陸調整。

3、ポリウレア塗布

ポリウレアを適正な塗布厚みにて塗布を行います。（吹付け、手塗り）

4、トップコート塗布

目的に応じてトップコートを塗布することも可能。また、耐火塗料や、遮熱塗料との組み合わせも可能です。



ポリウレアの混合システム（タイプ別）

加温型吹付けポリウレア

専用ガンを使用して、衝突混合にて吹付け。圧力で材料を吹付けるため硬化が早く、強度のある強い塗膜が素早く形成されます。



NUKOTE
加温硬化型ポリウレア

常温硬化型ポリウレア

スタティックミキサーを使用して、混合。先端にエアチップを取り付けることで押し出された材料をエアの力で吹付けます。



NUKOTE
常温硬化型ポリウレア

手塗り型ポリウレア

重量計を使用して、適切な混合比率にて混合攪拌。材料混合比率は別途資料を参照ください。A材B材は事前によりしっかりと攪拌をお願い致します。



NUKOTE
手塗り型ポリウレア